

生育・収量予測ツールを用いたトマト「鈴玉」の 55t/10a 採り栽培

利用対象：環境制御を行う施設トマト生産者

- 生育・収量予測ツール（※）は環境データ（日射量、CO₂濃度、ハウス内気温）と生育データ（栽植密度、葉数）から、最大収量（ポテンシャル収量）を予測できます。
- 2017年8月9日定植から2018年7月27日の栽培では、生育・予測ツールによりポテンシャル収量50t/10aを超えるよう設定した条件で、毎週、環境と生育を管理したところ、トマト品種「鈴玉（※）」にて55.5t/10aの収量を達成しました。

日射量

太陽光利用
夏季遮光有

気温

日平均気温
20℃以上

CO₂濃度

400ppm 以上
窓全閉時 1000-1300ppm

栽植密度

3600 株/10a

葉数

着生 18-20 枚

面積当たり葉面積 3.3-3.6m²/m²

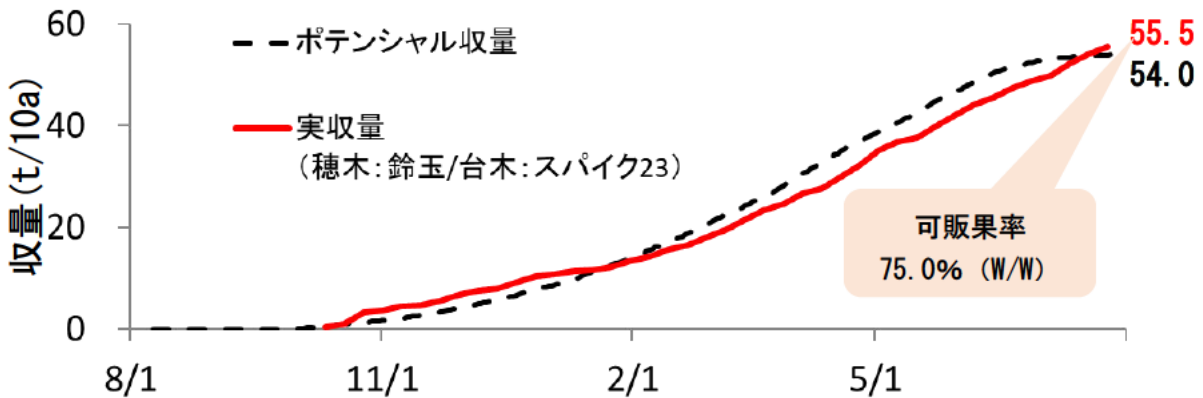


図. ポテンシャル収量および実収量の推移

場所：植物工場三重実証拠点（5a） ロックウール養液栽培

二次育苗 EC：3.6mS/cm 本圃 EC：2.0-3.6mS/cm

※鈴玉：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構が育成しました。優れた食味と多収性を兼ね備えている大玉トマト品種です。愛三種苗株式会社より販売しています。

※生育・収量予測ツール：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構が開発しました。

※本研究は、内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「次世代農林水産業創造技術」(管理法人：農研機構 生物系特定産業技術研究支援センター)によって実施されました。

お問い合わせ先	生産技術研究室 野菜園芸研究課 西村浩志 電話 0598-42-6358
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm